



ぴっぴだより

No10. 2022. 12. 23

「生きる力」。ぴっぴの子ども達を持っているもののひとつが、この「生きる力」なのでしょう。ぴっぴの森で子ども達と過ごす度に気付かされます。「この実は食べられるよ」「これは毒があるからダメ」「火はこうやっておこすといい」。私よりもたくさんの経験をして知識として持っている子ども達。森でたくましく過ごし、困難もトラブルも自分達で解決していく姿を見ると、いま無人島に置き去りにされたら…、ジャングルの奥地に迷い込んだら…きっと確実に私よりもぴっぴの子ども達の方が強く逞しく生き延びていくんだろうなあと感じてしまいます。

便利なものがたくさん溢れる現代ですが、便利になる毎に私達は何かの能力をひとつ失っているような気がします。車生活ですっかり鈍ってしまった足腰(数年前にギックリ腰を経験。救急搬送される事態に…)、ナビに頼りすぎて覚えられない道。前は辞書で調べていたことも今はすぐにスマホで調べてしまいます。

元々機械に弱くアナログ派だった私も4年前に(!)スマホにしてからやはりスマホ頼りの生活です。でもガラケーだった5年前を思い出しました。

小学生4年生の息子を連れての初めての海外旅行。「スマホなしで行くの?!」という周りの心配をよそに、「なんとかなるっしょ」と出発。だって海外一人旅を楽しんでいた学生時代はそんなものなくて皆当たり前だったし!

ただ、私たちは「イタリアでレンタカーを借りて田舎のアグリツーリズムに泊まる」という目的がありました。短期でイタリアに留学経験があったので、簡単なイタリア語は話せるものの、レンタカーで目的地まで行く…のは本当にハードルが高かった!

レンタカー屋さんに行って地図を買えば目的の街に着ける…と思っていたら、あったのは“関東地方の地図”みたいな高速道路しかのっていないような大まかな地図。レンタカー屋さんに大体の方向だけ(!)聞いて出発した我が峰岸一家。しかも車はマニュアル車、左ハンドル、右側通行。夫は初めての海外での運転。一瞬で見えなくなる道路標識はもちろんイタリア語。あー!やっぱり分かんない〜!ガソリンスタンドなどで聞いてみるものの空港周辺の大通りが入り組んだ道は複雑でちっともわかりません。(しかも持っている地図が“関東地方”…)

最後にバス停で待っていた青年にダメ元で尋ねました。「本当にその街に行きたいの？」と青年。「そうです」と答えるとぱっと顔を輝かせて、「僕は今、その街の近くの家に帰るバスを待っているんだ」というではありませんか！「じゃあ、ぜひ乗って案内して！」かくして、拙いイタリア語でお兄さんのナビを夫に伝える私と、エンストしながらマニュアル車に苦戦する夫、不安そうな息子、そして心優しいイタリア人青年の珍道中が始まりました。

お兄さんを退屈させないように脇汗をかきながらイタリア語で世間話をし、「次の角右だつて！」と夫に伝える私。お兄さんは、夫が右折の度にエンストして焦っていると「大丈夫！落ち着いて！」と自分は免許を持っていないけど励ましてくれます。実家が農業をやっているのでフィレンツェの大学で農業を学んでいること、卒業したら実家を継いで新しい事にも挑戦したい事(多分そんな内容)を話してくれました。

1時間半ほどかけてお兄さんの住む村に到着。息子と後部座席で折った折り鶴をお兄さんにプレゼントして別れました。

「この後はこの道をまっすぐ」という事でしたが、何分行ってもそれらしい街は出てきません。その後、ガソリンスタンドで給油していたお客さんに尋ね(「僕の車の後ろについてきて！」と途中まで案内してくれました)、小さな街角のバールのお姉さんに尋ね(「もう後ちょっとよ！」と道の先を指さされ間違っただけで一安心)、出発から3時間かけてようやくアグリツリーズモに到着しました。

帰り道もちゃんと帰れるよう、滞在中にフィレンツェまでバスで日帰りした際には車窓と睨めっこで道順を把握。なんだか、本当にいつの時代の旅?!と今考えると突っ込みたくなりますが、大変な思いをただけあって決して忘れられない、そしてたくさんの人の優しさに触れられた旅になりました。

自分達の持っている能力を駆使して、プラス周りの人たちの親切に助けられて生きていく…。そんな少し前まで当たり前だったことに気づいた旅でもありました。もちろん最新のテクノロジーや便利なツールの恩恵も享受しつつ、この旅で感じた思いは忘れずにいたいと今も思っています。

便利さに甘えて能力が衰えないよう、そしていくつになっても日々学び進歩し続ける大人であれるよう、大きなパワーと能力を持った子ども達にまだまだ負けないぞ!という気持ちでびっぴの森に今日も向かいます。

ねぎ(峰岸麻奈)

木のいきもの子育てばなし 1月

静まりかえった冬の森。多くの生きものたちが眠りにつく極寒の冬の森で育まれる命があります。軽井沢の森に棲むツキノワグマは12月～5月頃まで木のねもとなどにできた穴で冬眠し、そこで妊娠、出産、子育てをします。生まれたばかりの赤ちゃんは200～300gと大変小さいですが、冬眠穴をでる5月には3kgほどになります。約半年もの長い間お母さんグマは餌を、くわすでお腹の中で子どもたちを育み、そして出産、授乳をして大きくなっていくのです。なんてすごい！

人間に比べても考えられませんね…。このお母さんグマの

エネルギーはいったいどこから得ているのでしょうか。それは、森の秋の実りが大きく

影響しているのです

お母さんグマは秋に1本脂目が十分に蓄えられないと妊娠できないそうです。

つまり、秋にどんぐりや栗、ヤマブドウなどの森の恵みをいかに食べられたかが関係してくるのです。ですので、秋は必死になって木の实を食べているグマの季節でありよくグマをみかけることもあるのです。

今年のどんぐりの実りは、グマにとって、十分な量だ。たでしうか。冬を過ごすために

快適な巣穴はみつけれられたでしょうか？

これから冬の間、どうか、お母さんグマと子グマたちが元気ですごせますように…。

みなさんも冬休みの間元気ですごせますように…。また新年みなさんと笑顔でお会い出来ますこと、楽しみにしています。

メリークリスマス & よい年をお迎え下さい。

菜々恵

通常クマの赤ちゃんは1～2頭産まれます。双生の子が9割はいます



たんたんはたけ

2022年も、もう終わりが近づいています。
今年も 実りに 感謝です。

ひっぴろスタッフ 4年めの私ですが、今年はこの4年で一番 多くお米が収穫できた年でした。
みなさま ご協力 ありがとうございます！

ひっぴろの田んぼにひとりでも、少人数でいても大勢でいても... いつも気持ちよくて、田んぼで懐が深いなあと 今 振り返っています。

田んぼに足をを入れて 肌に触れる空気を感じながら ここにいる時間... 何かに包まれているような 感覚。森にいるのとはまた別の。

少し前に、"稲には栽培者の気持ちが伝わる。子どもと同じ稲を育てる人を見ながら育つ"という文に出合って ドキッとしました。私、見守られてた？

ちょっと ちがうかな...

"人を良くすると書く「食」に関わらせてもらっていることに背筋をピンとさせられながら、有難さを感じながら、人を心地良くするような食を考えていきたいです。

はるこ